

ふるさと納税と幸福度の 関係

発表者 長岡、富田、濱口

研究の背景

- ふるさと納税とは
 - 地域活性化を目的とした税制制度であり寄付者は返礼品や税金の控除を享受可
 - 寄付金の用途は公開され、地域福祉や公共サービスの充実が期待される
- 研究の目的
 - ふるさと納税受入額が多い地域では、公共施設の整備やサービスの改善が進む可能性がある
 - こうした地域では、住民が生活の質の向上や幸福度の増加を感じるのではないか

仮説

ふるさと納税受入額が多い地域ほど
その地域の人々の幸福度は高くなる。
有意水準は5%を採用

必要な変数

- 応答変数 幸福度
- 主要説明変数 ふるさと納税受入額
- 統制変数 農家数

変数名	説明
payment	ふるさと納税納付額（千円）(2019年)
0to3population	0~3歳人口数(人)
unemployed	完全失業者数(人)
forest	森林面積(2019年)(ha)
single	単独世帯数(人)
lifemale	男性平均寿命
lifefemale	女性平均寿命
survice	第三次産業就業者数(人)
education	教育費(千円)
welfare	社会福祉費(千円)
farmer	農家数

サンプルサイズ 1604(e-statから引用)

幸福度の定義

- 経済社会状況 0~3歳人口数(人)、完全失業者数(人)
- 心身の健康 森林面積(2019年)(ha)、平均寿命、第三次産業就業者数(人)、
- 関係性 単独世帯数(人)

教育費(千円)、社会福祉費(千円)は経済社会状況、心身の健康療法に含まれる

変数 幸福度を作成

それぞれの変数をその地域の総人口または総面積で割る

相関行列を作成して主成分分析を行なった
第1主成分を利用して変数幸福度を作成

	第1主成分	第2主成分
標準偏差	1.5453	1.4228
寄与率	0.2653	0.2249
累積寄与率	0.2653	0.4903

固有ベクトル

変数	第1主成分	第2主成分
男性平均寿命	0.453	-0.258
女性平均寿命	0.401	-0.321
0~3歳人口	0.440	-0.102
完全失業者数	-0.048	0.443
森林面積	-0.384	-0.234
単身世帯数	-0.116	-0.405
第三次産業従事者数	0.227	-0.321
教育費	-0.269	-0.426
社会福祉費	-0.388	-0.343

記述統計

	平均値	標準偏差	最小値	最大値	有効 ケース数
幸福度	25.74	26.16	-310.18	53.70	1604.00
ふるさと納税 納付額	255876.43	710140.27	0.00	18496917. 00	1604.00
農家の数	586.27	730.78	0.00	6813.00	1604.00

推定

ふるさと納税受入額のみを説明変数に含んだ
単回帰分析

	Model1
切片	25.709 (<0.001)
受入額	0.000 (0.880)
サンプルサイズ	1604
決定係数	0.000

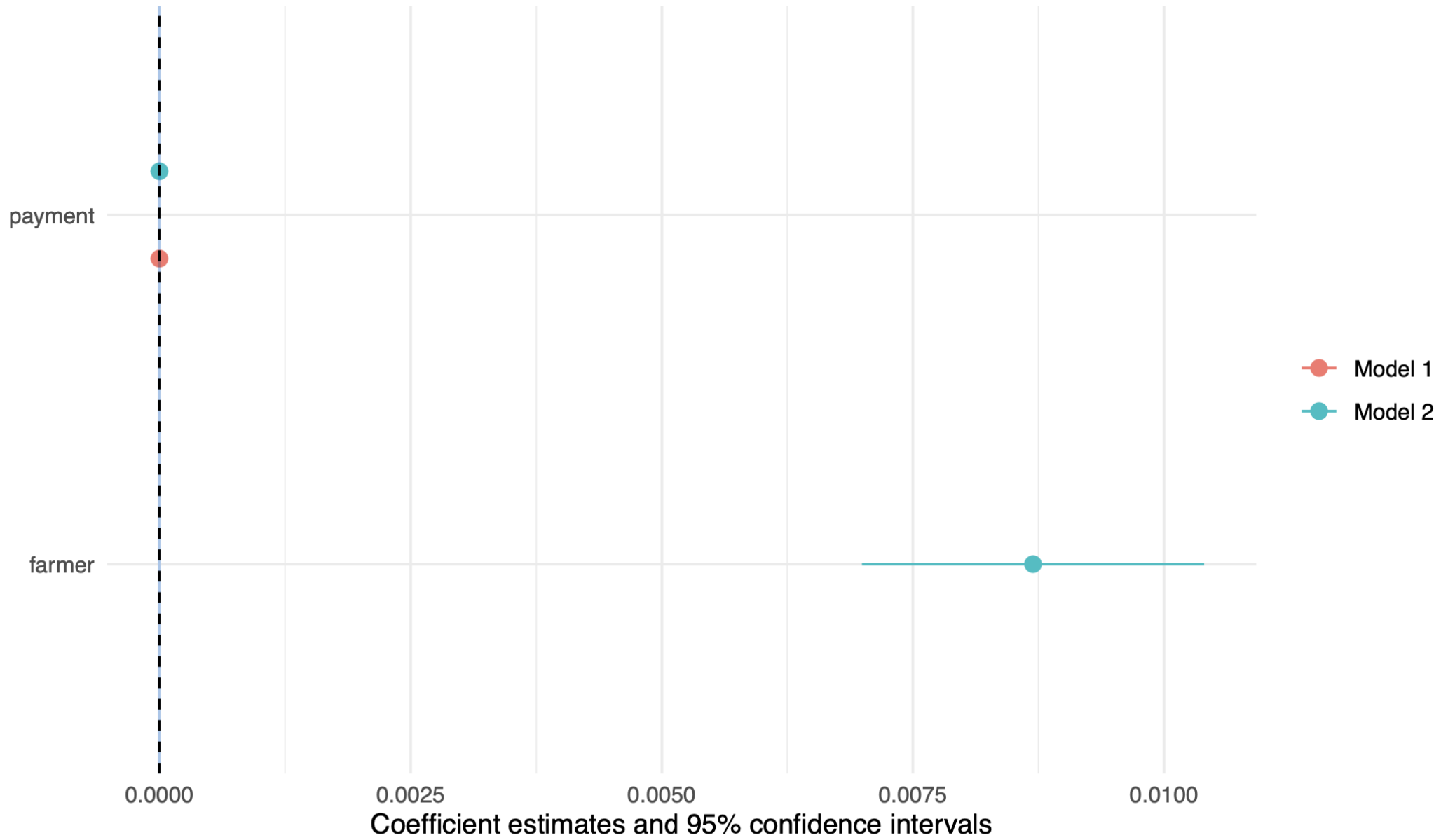
(括弧内はP値)

推定

ふるさと納税受入額と農家数を説明変数に含んだ重回帰分析

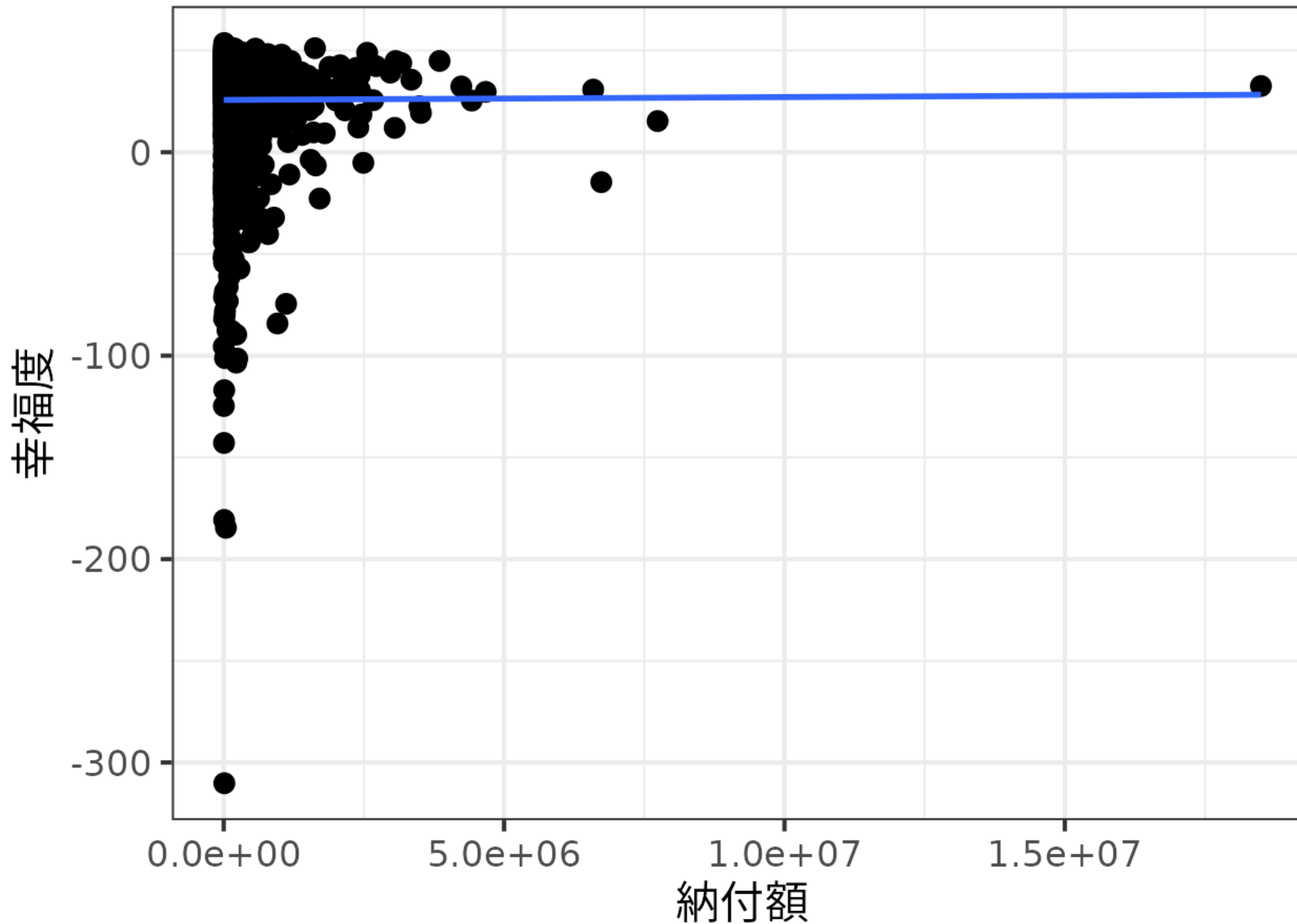
	Model2
切片	20.555 (<0.001)
受入額	0.000 (0.691)
農家数	0.009 (<0.001)
サンプルサイズ	1604
決定係数	0.059

(括弧内はP値)

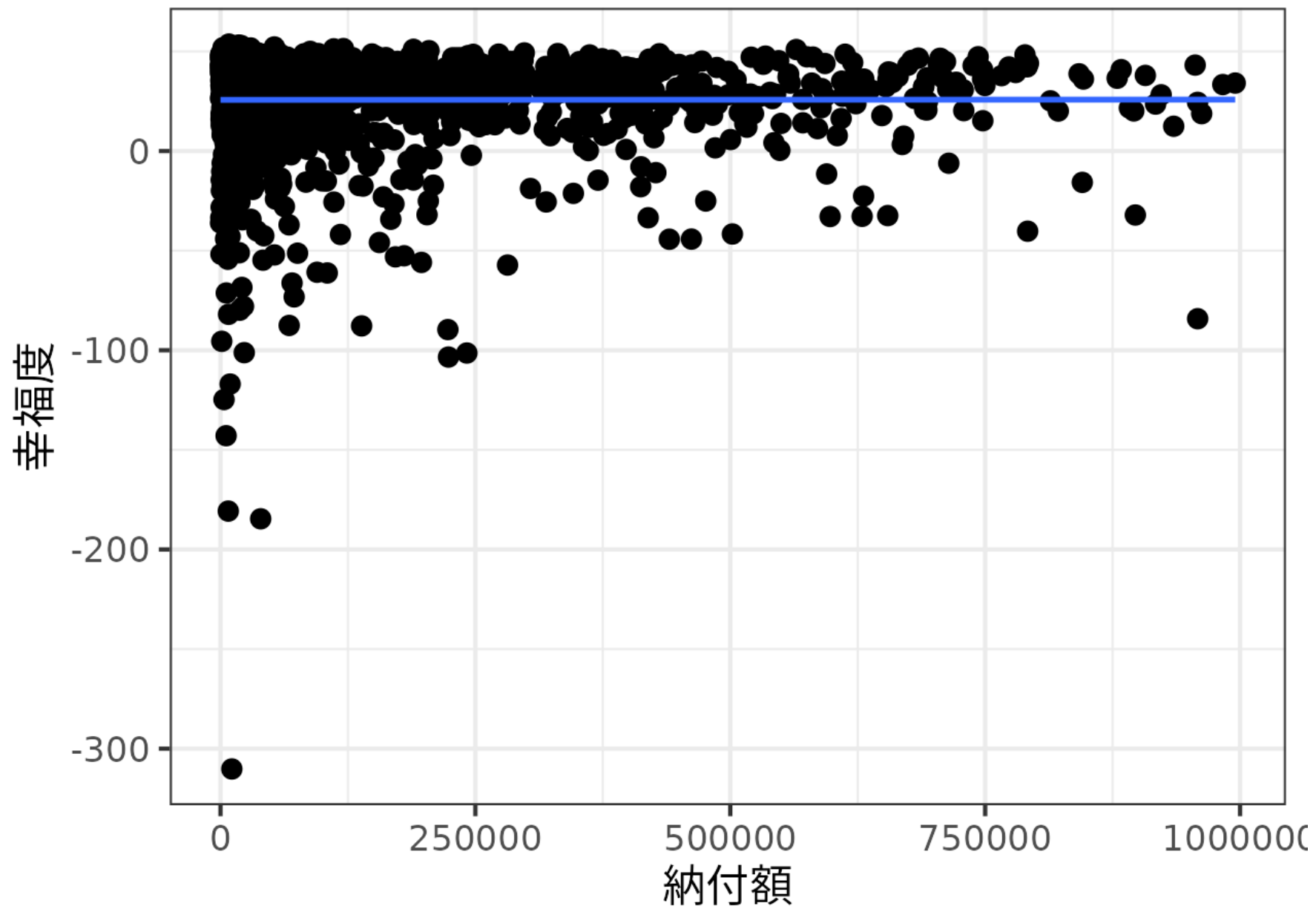


散布図 1

納付額が大きい数値に影響を受けている可能性



散布図 2



結論

- ふるさと納税受入額とその地域の幸福度の間には統計的に有意な関係はなかった

考えられる原因

- ・ 地域ごとに差異がある可能性
- ・ ふるさと納税が地域住民に恩益をもたらすまでに時差がある可能性
- ・ 幸福度の定義の仕方
- ・ 幸福度を構成する変数の選び方
- ・ 第1主成分の寄与率が小さい